紹介

羽田正・三浦徹編

『イスラム都市研究〔歴史と展望〕』

東京大学出版会，1991年，定価5,974円

鈴木 董^{*}
SUZUKI Tadashi

1988年より3年間にわたり続けられた，板垣雄三教授を代表者とする文部省科学研究費重点領域研究「イスラムの都市性」研究プロジェクトは，我が国におけるイスラム圏の都市研究を活性化した。このプロジェクトの発足にあたり，故嶋田襄平教授は，欧米及びイスラム圏での研究も含めたイスラム圏都市研究の過去の蓄積を受け継ぎ生かしていくために，イスラム圏の都市に関する研究文献の書誌を作製することを提案された。この提言は，欧米における研究史上の諸文献の説くところを自家薬籠中のものとしたうえで独自のイスラム史研究を進められた嶋田教授にして始めてなしうる貴重な提言であった。

その後，嶋田教授は，1990年5月に惜しくも逝去された。しかし，3年におよぶ研究プロジェクトが終結を迎えた頃，故嶋田教授の提言に十全に応えうる著作が刊行されるに至った。それが，本書である。

本書は，マグリブ（北アフリカ），マシュリク（東アラブ），トルコ，イラン，中央アジアという，イスラム圏の5つの中心的地域を対象に，各々の地域の第一線の研究者の手により執筆されている。各地域についての部分は，各々，研究史の回顧及びテーマ別の研究動向紹介からなる。各部分は，ほぼ共通した構成をとりながらも，かなり特徴的な個性をも示している。

私市正年氏の手になるマグリブの部は，マグリブ都市研究史を詳細に回顧紹介しつつ，同時に，欧米におけるイスラム圏の都市の研究のモデルとパラダイムの多くが，フランス人の手になるマグリブ都市研究によって形成された事情を，情熱をこめた筆致で詳細に明らかとしている。そしてさらに，そこから生じたその後の欧米におけるイスラム圏の都市の研究における諸問題と諸偏向について指摘している。この部分は，この意味で，まさに5地域中の冒頭におかれるにふさわしい内容を示している。

三浦徹氏の執筆にかかるマシュリクの部は，これを受ける形で，同地域の都市についての研究史の回顧と展望であると同時に，マグリブ篇で私市氏によって説かれた欧米で

* 東京大学東洋文化研究所教授

Professor, Institute of Oriental Culture, University of Tokyo

の「イスラム都市」論のステレオタイプ克服の試みのなかで現われてきた諸理論にふれ、とりわけラビダスのネットワーク論の再検討の試みともなっている。

それゆえ、マグリブとマシュリクの部は、当該地域についての都市研究案内であると同時に、イスラム圏都市の研究の諸パラダイムの形成過程と、それら諸パラダイムのもつ問題点の再検討ともなっている。

これに対し、トルコ、イラン、中央アジアに関する部分は、各地域の都市に関する研究のよりザッハリッヒな回顧と展望となっている。そのうち、林佳世子氏によるトルコの部は、トルコ本国における広義の歴史研究の歴史の長さや層の厚さと、林氏の現地体験の豊富さを反映して、そこで採り上げられた文献のなかでトルコ人によるトルコ語文献が多量かつ多様であることが印象的である。

羽田正^{まさし}氏の手になるイランの部は、長年のフランス留学の成果をふまえ、欧米での研究史の幅広く、かつ精緻な検討が中心を占める。同時に、羽田氏の関心の広さに照応し、都市の社会や歴史のみならず、建築や都市計画といった面についての研究の紹介と検討にも特色がみられる。

小松久男氏による中央アジアの部は、本邦では情報入手の困難なロシア語文献の広汎な紹介が試みられており、今後の研究の進展に大きな意味をもつと思われる。また、旧ソ連邦での研究の特色から、歴史考古学的な文献にまで言及が及んでいることが目をひく。

羽田氏の手になる序章と、三浦氏の手になる終章において論ぜられているように、イスラム圏の都市の研究は、現在、欧米を中心としてつくり出されてきたステレオタイプの視角を克服し、歴史的現実により照応した分析視角を真剣に模索すべき時期にきている。

その時にあたり、イスラム圏の主要5地域についての欧米及び現地における研究を含めた研究史の回顧と研究動向の紹介を、極めて豊富な実例をとり上げつつ、体系的に行った本書は、まさに時宜にかなっているといえよう。各章でとり上げた文献を、各章末で、著者名に従い一覧表として掲げてあるのも、文献検索にとり甚だ便利である。また、欧米主要語以外の言葉で書かれた文献については、その題名の邦訳が添えられていることも、利用者に対し親切な配慮である。

欧米は勿論のこと、対象とされた各地域でも類例の全くない、本書のような高度の研究案内が邦文で刊行されたことは喜ばしい。将来続篇が刊行されることを期待するとともに、本書を広く国際的に学界の共有財産とするために、欧文版の刊行を切望するものである。